

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

R8C/25 グループ データフラッシュテーブル

1. 要約

この資料はR8C/25グループのデータフラッシュテーブルの設定方法例、及び応用例について説明しています。

2. はじめに

この資料で説明する応用例は次のマイコン、条件での利用に適用されます。

- マイコン : R8C/25グループ

R8C/25グループと同様のSFR(周辺機能レジスタ)を持つ他のR8C/Tinyシリーズでも本プログラムを使用することができます。ただし、一部の機能を機能追加等に変更している場合がありますのでマニュアルで確認してください。このアプリケーションノート使用に際しては十分な評価を行ってください。

3. 応用例の説明

3.1 コード/データの種類

プログラムを構成するデータ/コードは、書き換えるものやできないもの、初期値を持つものと持たないものなど様々です。すべてのデータ/コードを性質に応じて、ROM領域、RAM領域、スタック領域へと配置しなければなりません。

この節では、NC30で生成されるデータ/コードの種類を説明します。

3.1.1 NC30が生成するデータ/コード

NC30 が生成するデータ/コードの種類と配置領域を図 3.1 に示します。

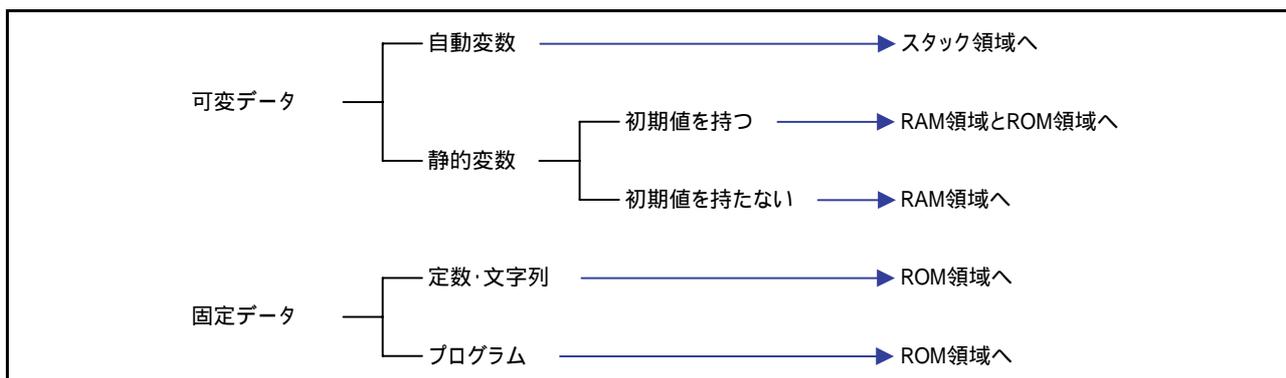


図 3.1 NC30が生成するデータ/コードと記憶領域

3.1.2 初期値を持つ静的変数の扱い

「初期値を持つ静的変数」は、書き換え可能なデータですからRAM上になければなりません。しかし、RAM上にあると初期値を設定することができません。

NC30ではこの初期値を持つ静的変数に対してはRAM上に領域を確保し、ROM上に初期値を格納します。そしてスタートアッププログラムの中でROM上の初期値をRAM上の領域にコピーします。

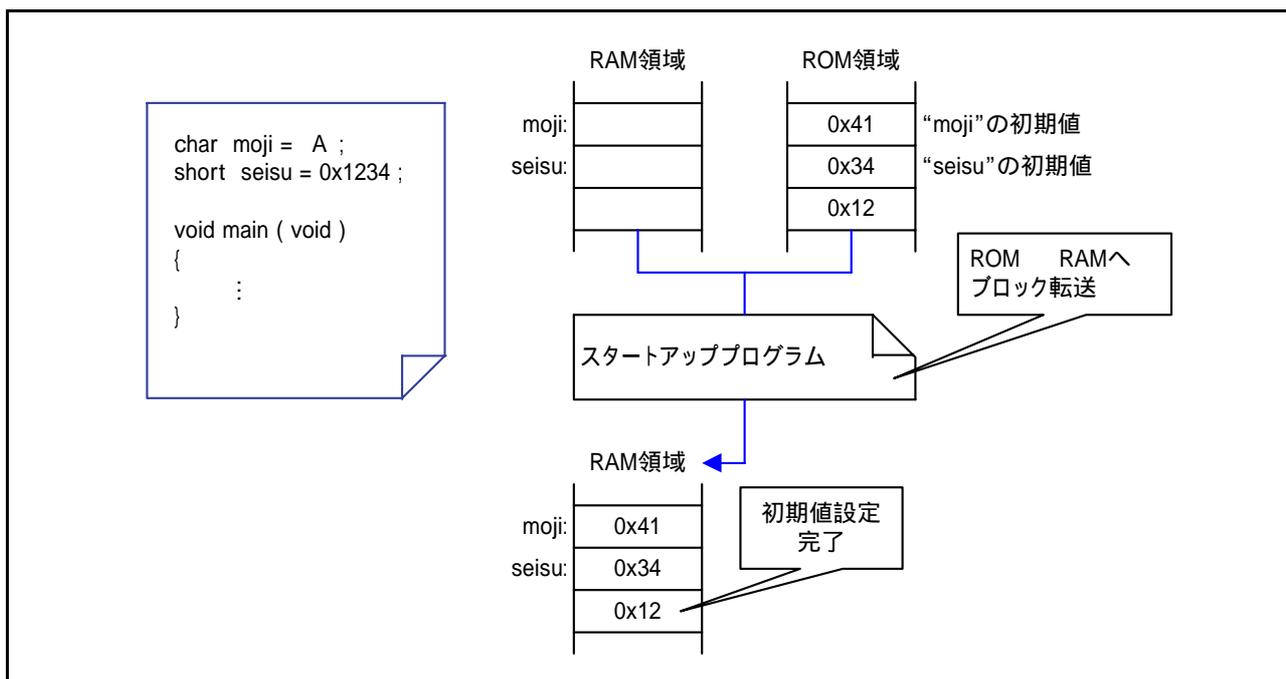


図 3.2 初期値を持つ変数の扱い

3.2 NC30が管理するセクション

NC30はデータ/コードの配置領域を「セクション」として管理しています。
この節では、NC30が生成および管理するセクションの種類と管理方法を説明します。

3.2.1 セクションの構成

NC30ではデータを種類別にセクションに分けて管理します(図 3.3)。NC30が管理するセクションの構成を表 3.1に示します。

表 3.1 NC30のセクション構成

セクションベース名	内容
data	初期値を持つ静的変数を格納
bss	初期値を持たない静的変数を格納
rom	文字列・定数を格納
program	プログラムを格納
vector	可変ベクタ領域 (コンパイラは生成しない)
fvector	固定ベクタ領域 (コンパイラは生成しない)
stack	スタック領域 (コンパイラは生成しない)
heap	ヒープ領域 (コンパイラは生成しない)

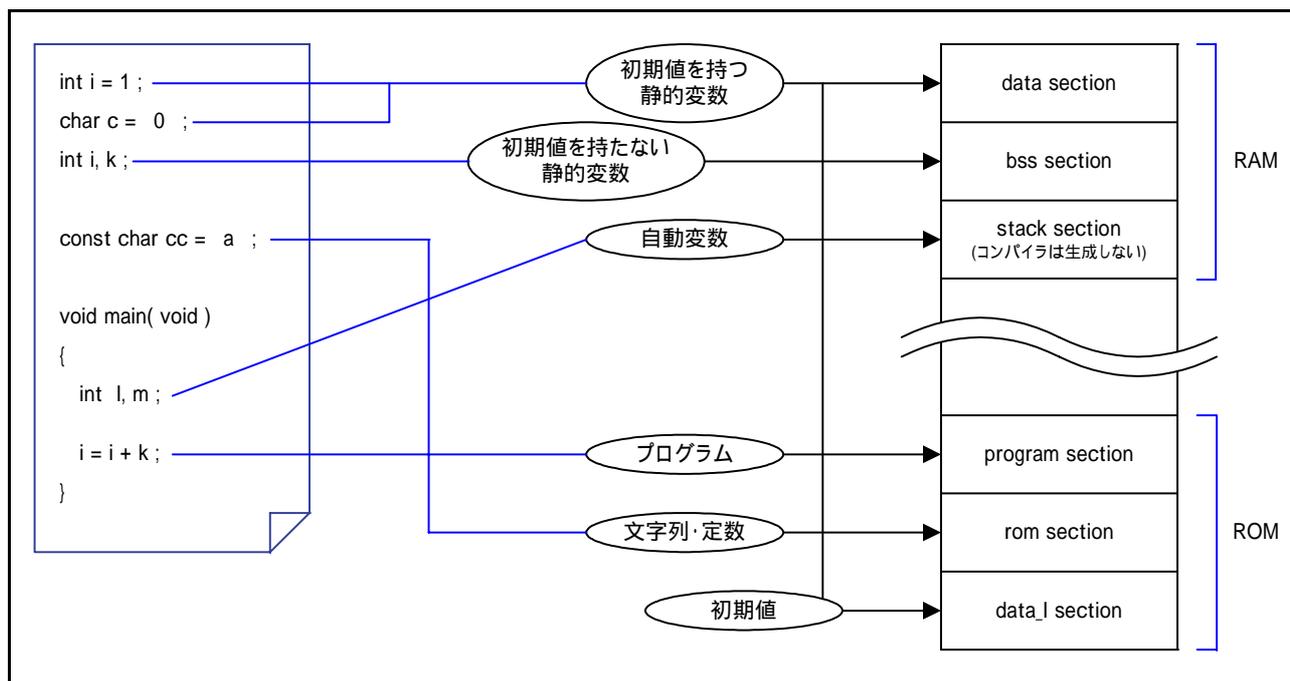


図 3.3 データの種類によるセクションへの配置

3.2.2 セクションの属性

NC30が生成するセクションは、初期値の有無、配置される領域、データサイズなどの「属性」によって、さらに細かく分類されます。

表 3.2に各属性を表す記号と内容を示します。

表 3.2 セクションの属性

属性	内容	対象セクションベース名
I	データの初期値を保持するセクション	data
N/F/S	N - near属性 (絶対番地0 ~ 0FFFFの64Kバイトの領域) F - far属性 (0 ~ FFFFF番地の1Mバイト全メモリ領域) S - SBDATA属性 (SB相対アドレッシングを使用できる領域)	data、bss、rom
E/O	文字列・定数を格納	data、bss、rom

3.2.3 セクションの命名規則

NC30が生成するセクションの名前はセクションベース名と属性によって決められます。

各セクションベース名と属性の組み合わせを図 3.4に示します。

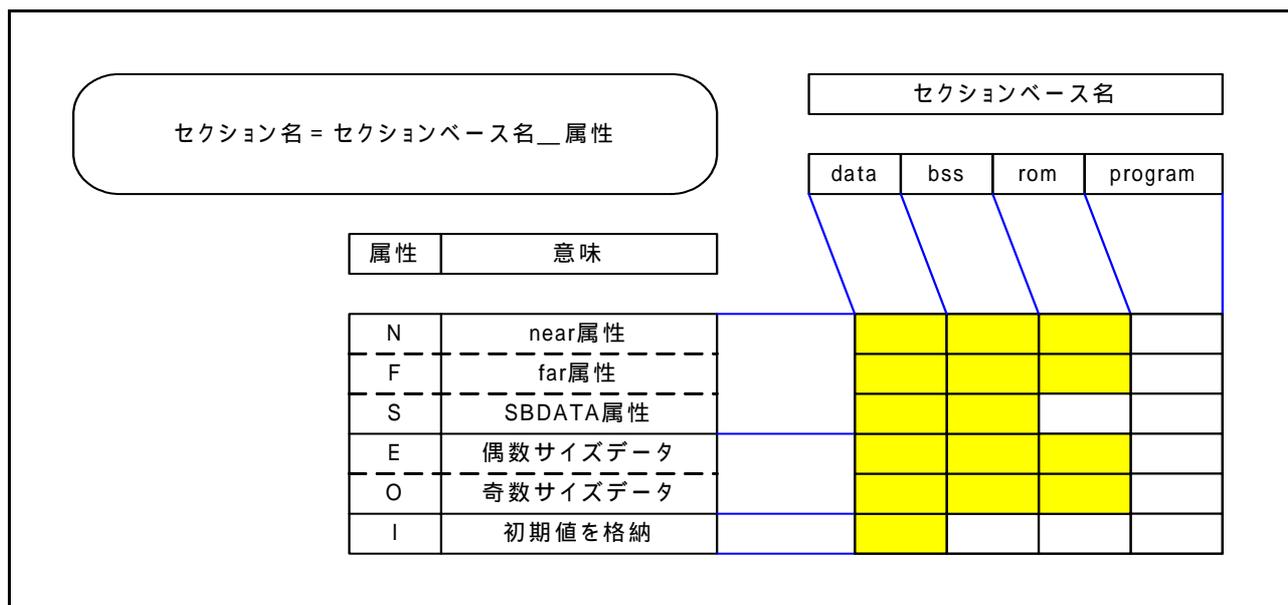


図 3.4 セクション名の命名規則

3.3 メモリ配置の制御

NC30ではユーザのシステムに合わせて効率よくメモリ配置ができる拡張機能を用意しています。この節では、メモリ配置のための拡張機能を説明します。

3.3.1 セクション名を変更する (#pragma SECTION)

NC30が生成するセクションベース名を変更します。" program " を変更した場合とそれ以外のセクションベース名を変更した場合は、変更名の有効範囲が異なります。

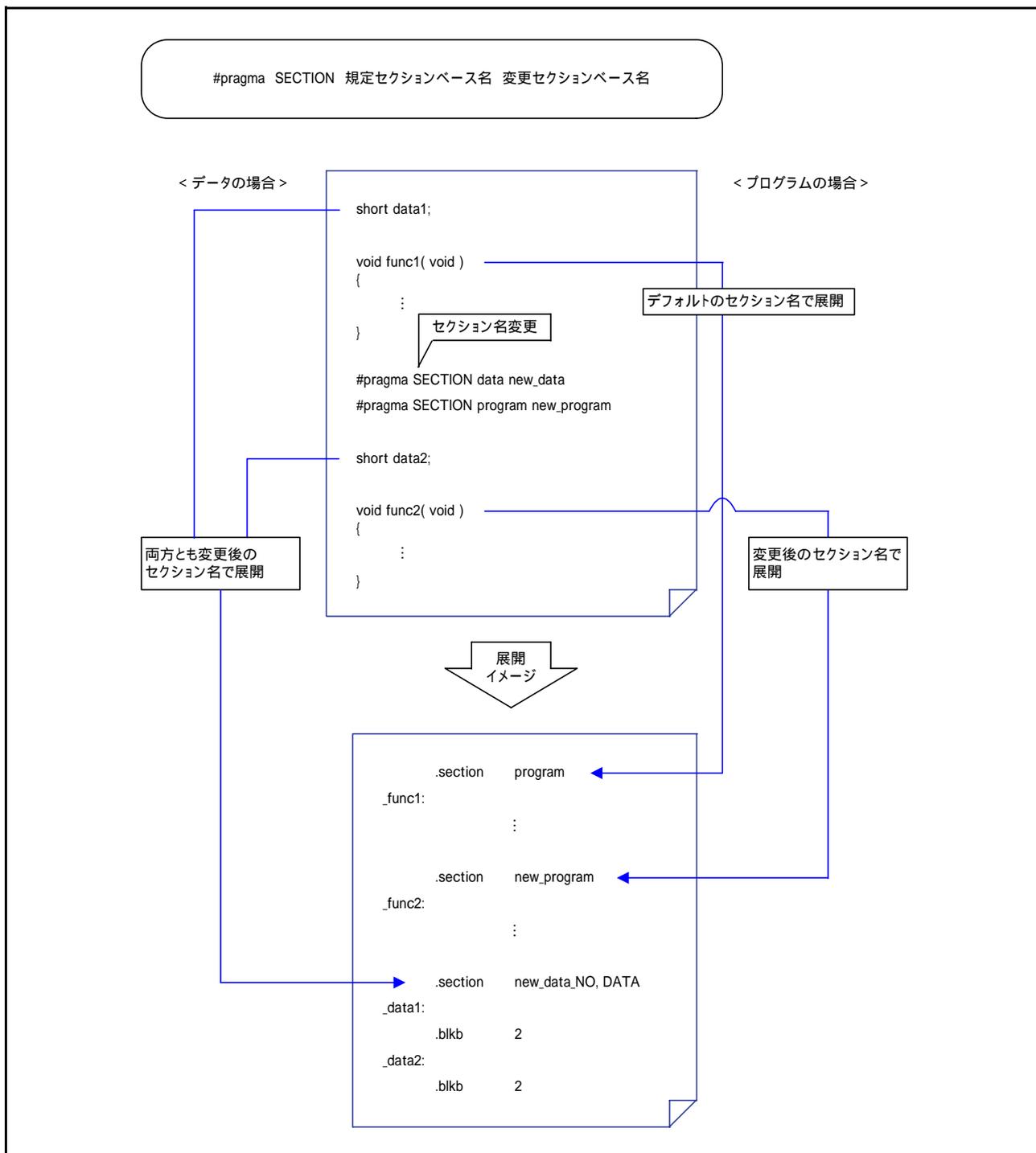


図 3.5 "#pragma SECTION" の記述例

3.3.2 セクション名の追加 ("sect30.inc")

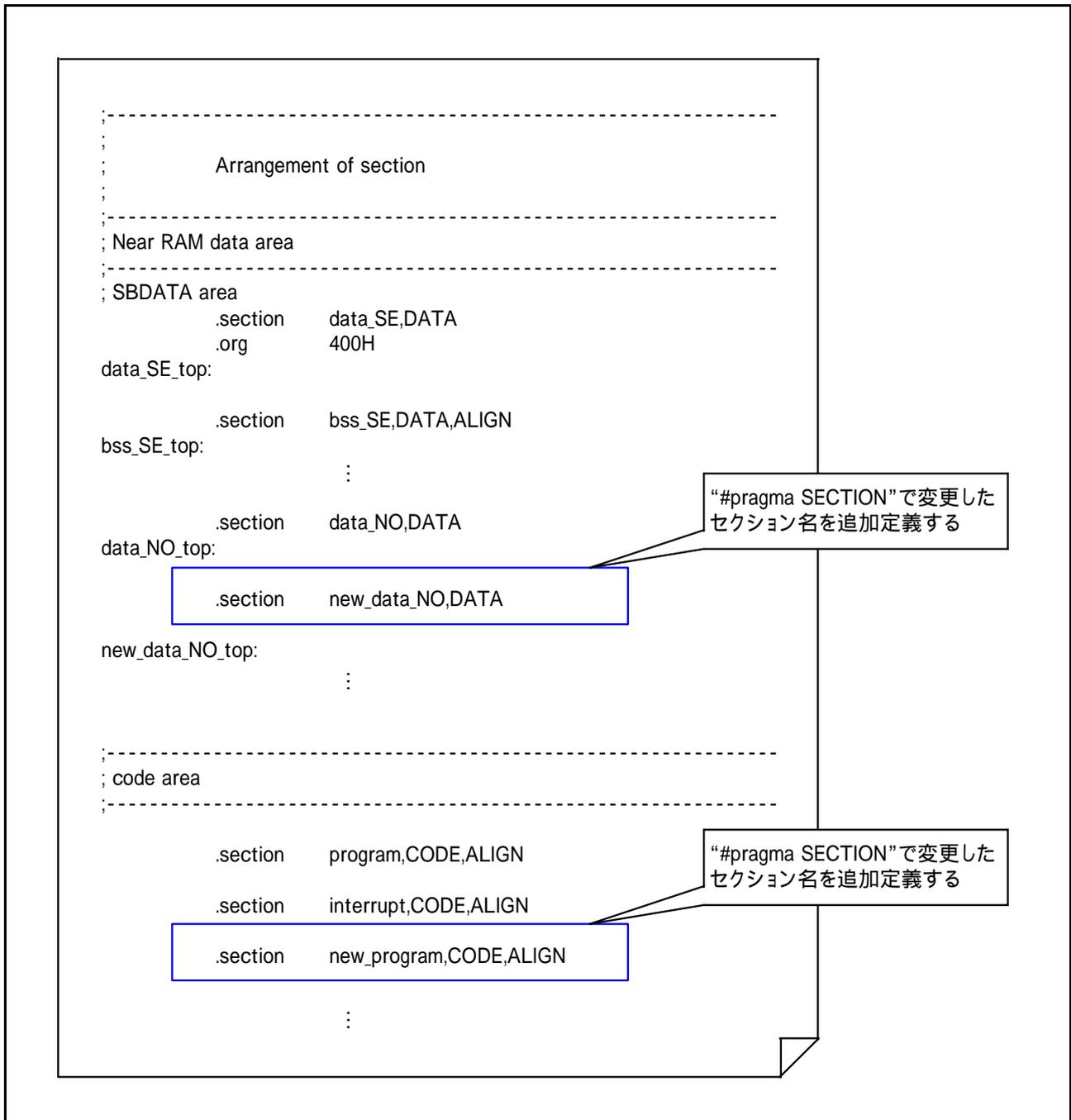


図 3.6 セクション名の追加 ("sect30.inc")

3.3.3 強制的にROMセクションへ配置する (const修飾子)

変数の型宣言時に初期データを記入すると、RAM領域とROM領域の両方が確保されます。しかし、このデータがプログラム実行中変化しない固定データであるとき、型宣言時に「const修飾子」を記述します。するとROM領域のみが確保され、RAM領域は使用しませんのでメモリ使用量を節約できます。また、コンパイル時に明示的な代入をチェックするため、書き換えミスをチェックできます。

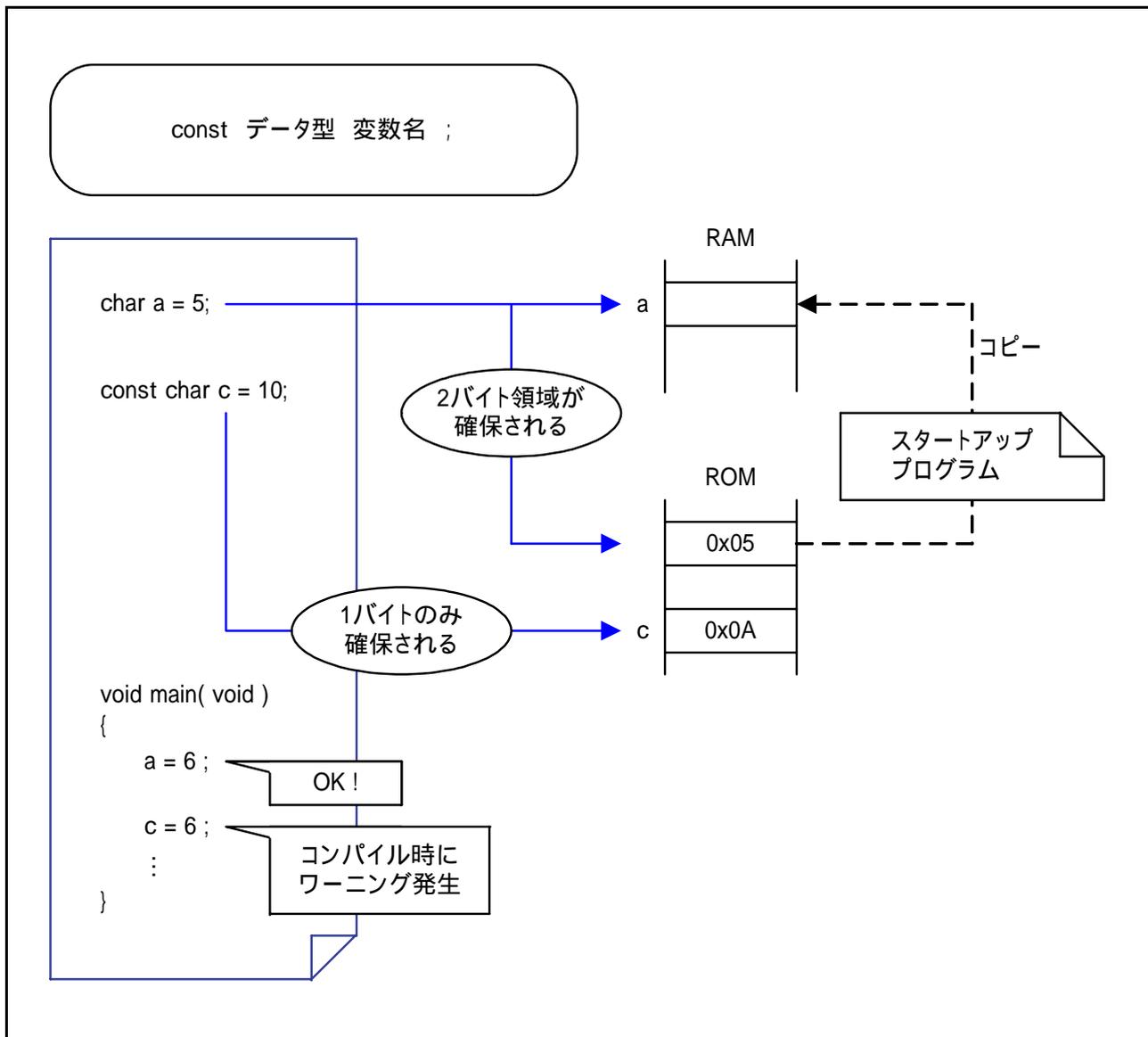


図 3.7 const修飾子とメモリ配置

3.4 構造体のメモリ配置の制御

NC30では構造体を配置する場合、メモリ使用量が最小になるように宣言順につめて（パッキングして）配置します。しかし、処理スピードを重視するときなどは「`#pragma STRUCT`」を記述し、構造体の配置方法を制御できます。

この節では、構造体の配置に関する拡張機能を説明します。

3.4.1 NC30の構造体配置規則

NC30では以下の規則に基づいて構造体のメンバを配置します。

- (1) 構造体はパッキングします。構造体の内部にパディング（隙間）は発生しません。
- (2) メンバの宣言順に配置します。

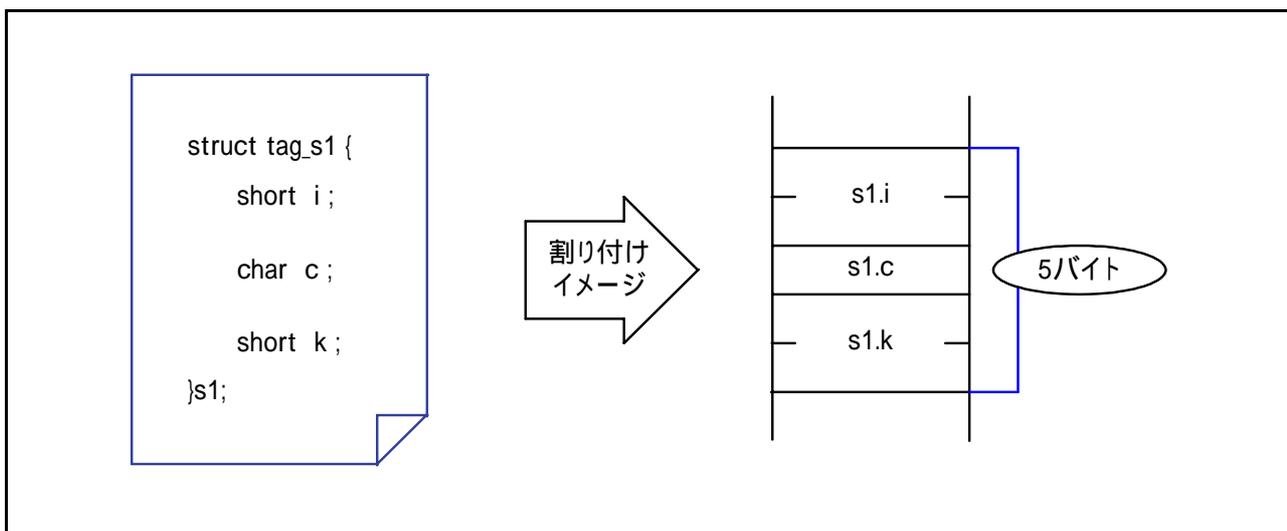


図 3.8 NC30デフォルトの構造体の割り付けイメージ

3.4.2 構造体メンバのパックの禁止（`#pragma STRUCT tag名 unpack`）

構造体メンバの合計サイズが偶数バイトになるようにパディング（隙間）を入れます。アクセススピードを優先するとき指定します。

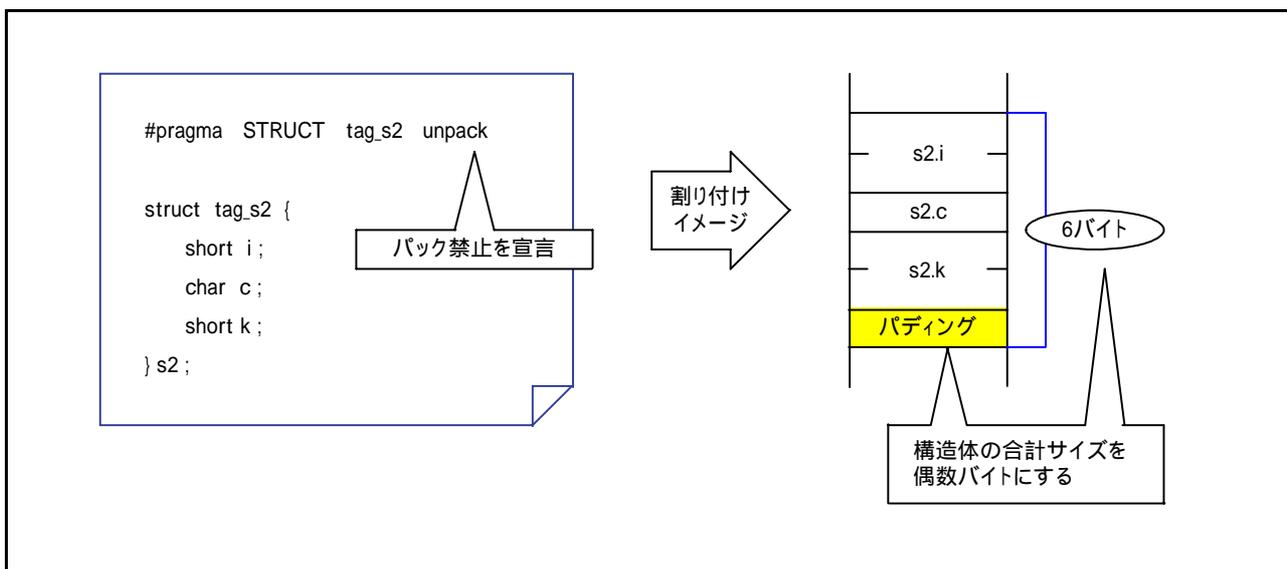


図 3.9 構造体メンバのパックの禁止

3.4.3 構造体メンバの配置の最適化 (#pragma STRUCT tag名 arrange)

構造体メンバの宣言順にとらわれず、偶数サイズのメンバを先に配置します。前述のパック禁止" #pragma STRUCT unpack "と合わせて使用すると、偶数サイズの各メンバが偶数番地から配置されることになるので、効率の良いメモリアクセスを実現できます。

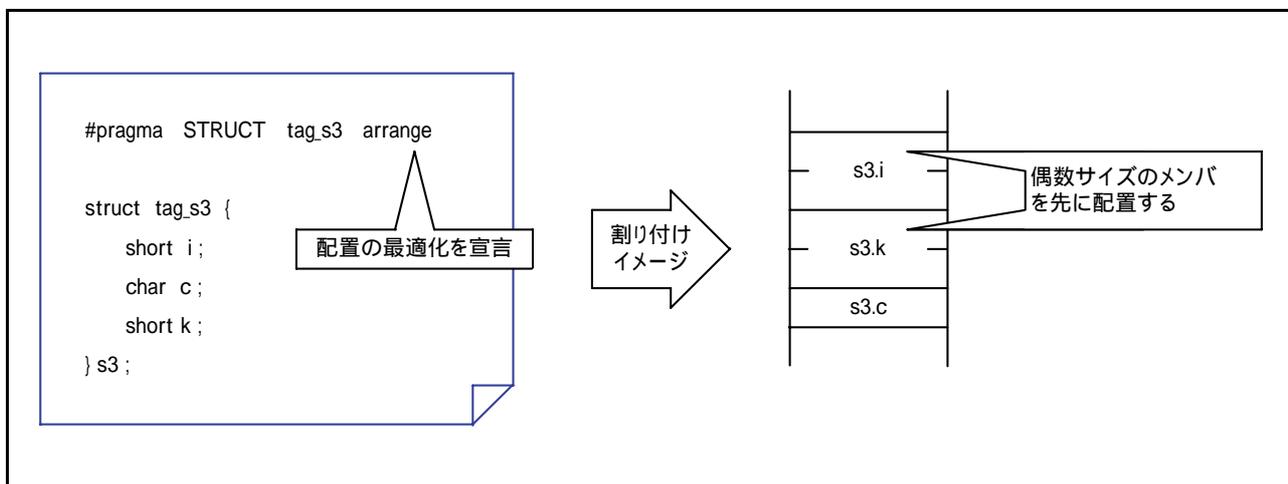


図 3.10 構造体メンバの配置の最適化

3.5 データフラッシュテーブルの記述例

この節ではデータテーブルをフラッシュメモリに配置するプログラムの記述例を示します。

3.5.1 R8C/25グループのフラッシュメモリ

フラッシュメモリは、ユーザROM領域とブートROM領域(予約領域)に分けられます。

図 3.11 にR8C/25グループのフラッシュメモリのブロック図を示します。

R8C/25グループのユーザROM領域には、マイコンの動作プログラムを格納する領域とは別に、1KバイトのブロックAおよび1KバイトのブロックBがあります。

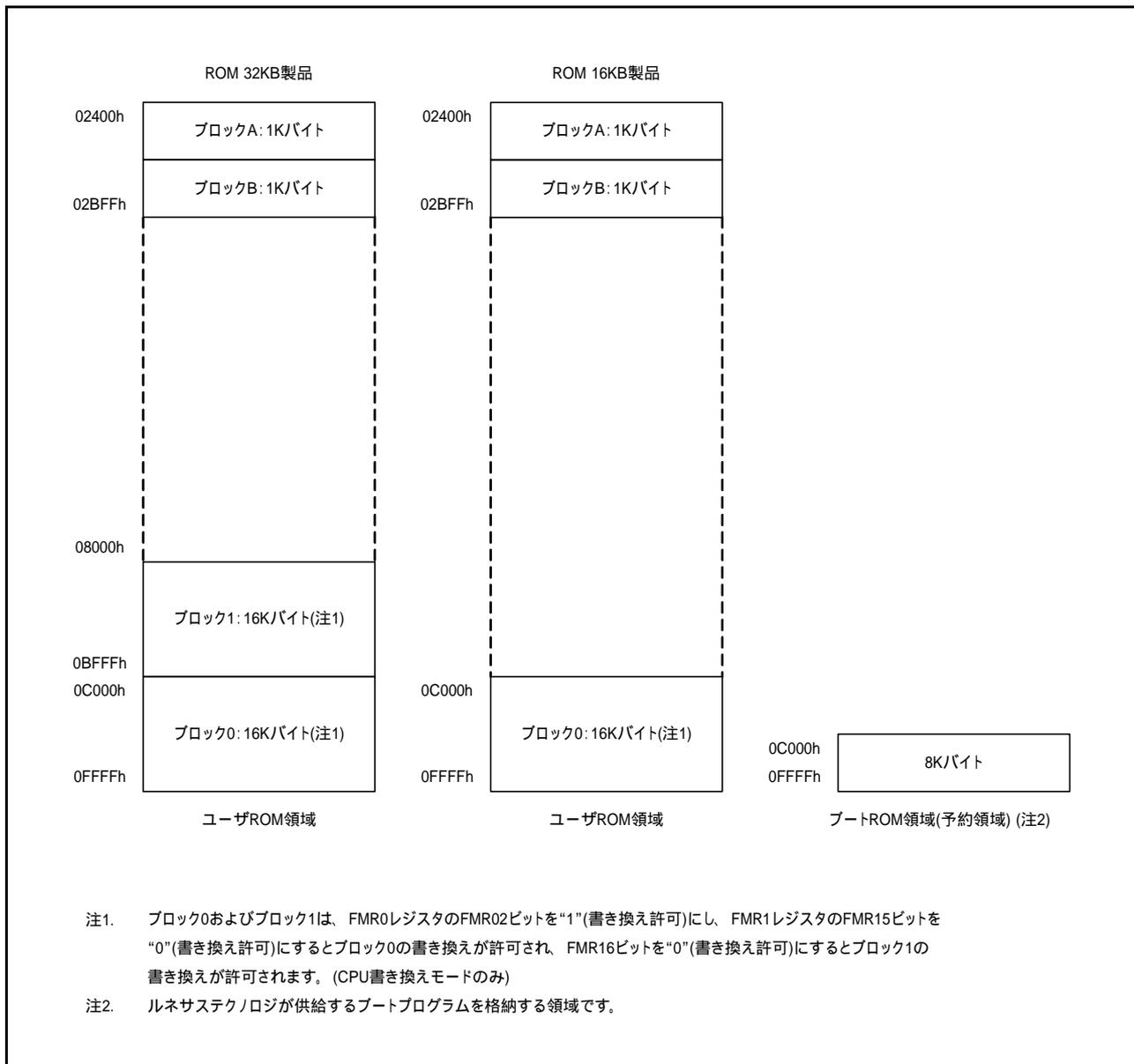


図 3.11 R8C/25グループのフラッシュメモリのブロック図

3.5.2 ソースファイルの記述

図 3.12 にソースファイルの記述例と展開イメージを示します。

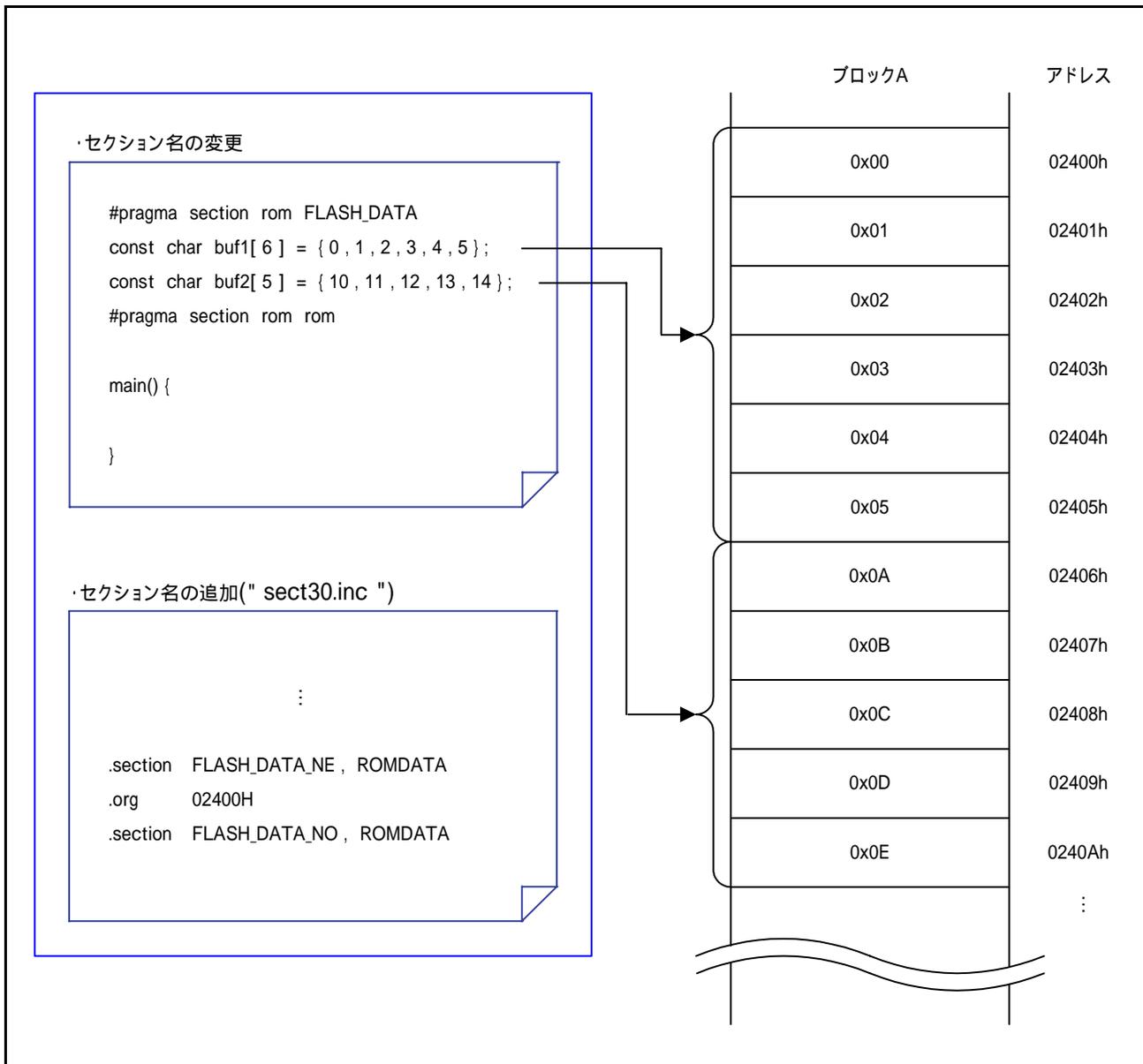


図 3.12 ソースファイルの記述例と展開イメージ

4. 参考ドキュメント

ハードウェアマニュアル

R8C/25グループハードウェアマニュアル

(最新版をルネサス テクノロジホームページから入手してください。)

テクニカルニュース/テクニカルアップデート

(最新の情報をルネサス テクノロジホームページから入手してください。)

ホームページとサポート窓口

ルネサス テクノロジホームページ
<http://japan.renesas.com/>

お問合せ先
<http://japan.renesas.com/inquiry>
csc@renesas.com

改訂記録	R8C/25 グループ データフラッシュテーブル
------	--------------------------

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2006.09.15	-	初版発行

安全設計に関するお願い

1. 弊社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品は故障が発生したり、誤動作する場合があります。弊社の半導体製品の故障又は誤動作によって結果として、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないような安全性を考慮した冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計に十分ご注意ください。

本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様が用途に応じた適切なルネサス テクノロジ製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報についてルネサス テクノロジが所有する知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例の使用に起因する損害、第三者所有の権利に対する侵害に関し、ルネサス テクノロジは責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス テクノロジは、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。ルネサス テクノロジ半導体製品のご購入に当たりましては、事前にルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店へ最新の情報をご確認頂きますとともに、ルネサス テクノロジホームページ (<http://www.renesas.com>) などを通じて公開される情報に常にご注意ください。
4. 本資料に記載した情報は、正確を期すため、慎重に制作したものです。万一本資料の記述誤りに起因する損害がお客様に生じた場合には、ルネサス テクノロジはその責任を負いません。
5. 本資料に記載の製品データ、図、表に示す技術的な内容、プログラム及びアルゴリズムを流用する場合は、技術内容、プログラム、アルゴリズム単位で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。ルネサス テクノロジは、適用可否に対する責任を負いません。
6. 本資料に記載された製品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。本資料に記載の製品を運輸、移動体用、医療用、航空宇宙用、原子力制御用、海底中継用機器あるいはシステムなど、特殊用途へのご利用をご検討の際には、ルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店へご照会ください。
7. 本資料の転載、複製については、文書によるルネサス テクノロジの事前の承諾が必要です。
8. 本資料に関し詳細についてのお問い合わせ、その他お気付きの点がございましたらルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店までご照会ください。